

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	子ども家庭福祉						授業形態		講義	
科目コード	750169	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	笠野 恵子								ICT活 用	
授業概要	わが国における子ども家庭福祉の動向について把握するために、子ども福祉の理念と対象、子ども福祉に関する制度の概要と歴史的展開、子育て支援施策の展開と課題、児童虐待における特徴と制度的対応、さらに保育所・幼稚園・認定こども園の概要や特徴、実施されている保育サービスや子育て環境などについて、幅広い視点から講義する。									
関連する科目	「児童福祉」、「社会的養護Ⅰ」を履修しておくことが望ましい。履修後は「社会的養護Ⅱ」を履修することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	新たな内容については、テキストのみではなく、補助的にプリントを作成・配布して、重要な内容をまとめ、講義する。授業の中で随時、関連する科目や以前に本科目で学んだ内容を振り返るために、学生に質問をする対話型の授業を行い、理解を深められるようにする。また、数回の小テストを行い、理解度を確認する。									
授業計画 【第1回】	第1回 オリエンテーション・なぜ子ども家庭福祉が必要なのか。 児童福祉の理念と定義・概要について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	第2回 子ども家庭福祉と保育 少子高齢社会から考える日本の将来について、理解し話し合う。									
授業計画 【第3回】	第3回 子どもと家庭を取り巻く環境 保育と子ども家庭福祉、保育者と子どもの福祉について学び、話し合う。									
授業計画 【第4回】	第4回 子ども家庭福祉の意義と歴史的展開 児童福祉の構成要素を学び、児童福祉は何を大切に考えてきたかを理解する。									
授業計画 【第5回】	第5回 世界における子ども家庭福祉の変遷 児童福祉の法体系から子どもの人権擁護、権利保障の仕組みを学ぶ。									
授業計画 【第6回】	第6回 我が国における子ども家庭福祉の変遷 子どもに関する福祉の源流、外国と日本の児童福祉の歩みを学ぶ。									
授業計画 【第7回】	第7回 子どもの権利擁護に対する取り組み状況 子ども家庭福祉の特性と家庭支援の必要性を学び、社会福祉との関連性を理解する。									
授業計画 【第8回】	第8回 我が国における子どもの家庭福祉制度の法体系 家庭福祉制度の歴史的変遷や概要について学ぶ。									
授業計画 【第9回】	第9回 子どもの貧困対策 子どもの貧困の概要を理解し支援方法や対策方法について学ぶ。									
授業計画 【第10回】	第10回 児童福祉行政と実施機関 児童福祉の行政機関の概要や役割について学ぶ。									

授業計画 【第11回】	第11回 児童福祉施設の変遷と種類 児童福祉の専門資格の種類と主な専門職の位置づけについて学び、仕事内容を理解する。
授業計画 【第12回】	第12回 多様な保育ニーズへの対応 多様な保育ニーズにはどのような者があるかを理解し、対応方法について学ぶ。
授業計画 【第13回】	第13回 子どもに関わる専門職 子どもと保護者に関する相談援助の意義と役割を学び、相談援助について理解する。
授業計画 【第14回】	第14回 子どもに関するソーシャルワークとは何か ソーシャルワークの意味を理解し、子どもソーシャルワークの役割と機能を学ぶ。
授業計画 【第15回】	第15回 子どもを取り巻く今後の課題 子ども家庭福祉を中心とした今後の世界の情勢、日本の状況を予測し、今後の課題を検討する。
授業の到達目標	1. 子ども家庭福祉分野で中心となっているしょうがい児や児童虐待等、社会的養護の実態とその対策について学ぶとともに、マクロ領域の法律や制度を理解する。【知識・理解の獲得】 2. 児童福祉制度やそれらを取り巻く環境を理解し、政策に関する基礎知識を学び、習得する。さらにソーシャルワークの視点から子どもの権利擁護と子育て家庭支援のあり方等についても理解する。【コミュニケーションスキルの育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	【予習】 ・現代社会の子どもに関する状況について関心を持ち、日頃からニュース等をチェックすること。 ・授業で用いる資料や必ず指定した教科書を事前に熟読し、次の講義内容を把握しておくこと。(約1時間)
授業時間外学習【復習】	【復習】 各回で具体的に指示。シラバスにない場合は授業中に指示する。 授業内で、小テストを3回程度実施するので、その内容を確認、復習しておくことが中心となる。(約1時間)
課題に対する フィードバック	小テストは評価後、返却及び解説をする。 定期試験は試験後に解説する。
評価方法・基準	以下の項目に基づいて評価する。 1) 小テスト (30点) 2) 定期試験 (40点) 3) レポート、授業内での発表などの参加意欲- (30点)
テキスト	・教科書名：『改訂2版最新保育士養成講座』子ども家庭福祉 ・著者名：『最新保育士養成講座』総括編集委員会 ・出版社名：全国児童福祉協議会・出版年 (ISBN)：2024 (978-4-7935-1461-6)
参考書	・保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典 ・著者：中坪史典，山下文一，松井剛太，伊藤嘉余子，立花直樹 ・出版社：ミネルヴァ書房・出版年 (ISBN)：2021 (978-4-6230-9084-6)
備考	